

総論

満点	200点	目標得点	135点	試験時間	120分	偏差値	72
大問数	2	小問数	60				
【解答形式】		選択式	60/60問	記述式	0/60問	論述式	0/60問
【問題難易度】		C	5/60問	B	33/60問	A	22/60問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：1000語を超える長文が2題出題され、この傾向に変化はない。
- 2：超長文において、文章を読解しながらの適語補充が20題、内容一致が10題。この出題形式も変化がない。
- 3：出題テーマは専門的な分野が出されることがあり、語彙レベルも高度である。

こんな力が求められる！

1000語を超える長文が2題。試験時間が2時間。まず集中力を2時間維持させることが何よりも重要である。

そのためには単語力が全てとは言わないが、単語力がないとこれだけの超長文を読解していく過程において、つまづく箇所が多くなり、前後の内容から意味を推測するといっても限界がある。したがって夏休み明けぐらいには『でか単』のPART3までをマスターすることが必要である。

そうは言っても知らない単語が出てくることも有り得る。そのような場合、細部にこだわらずに、全体としては何を言っているのかということ念頭において、先へと読み進める大胆さも必要となる。

時間は2時間あり、速読という言葉に振り回される必要はない。初回の読解を深め、何を言っているのかということパラグラフごとに整理しながら読み進める。つまり自分の頭の中で内容を整理して、全体像をつかむ力が要求される。

適語補充の問題については、長文だけだからといって文法力を無視しては正解に辿りつくことは出来ない。基本的な文法力は必須である。特にその際念頭において欲しいことは、従来の文法問題を解くというよりは、動詞の使い方（その動詞には目的語を取りうるのか、とか、どのような前置詞との絡みで使われるのか）、類義語の整理などの知識を身につける必要がある。

内容一致に関しては、本文の内容から判断するものである。確かに出題された文章に対しての知識があれば解きやすいかもしれないが、必ず本文に内容を解き明かす箇所がある。したがってその部分を的確に把握することが必要である。対応箇所がわかってもその部分の内容がわからなければ、結局正解には辿り着けないので、やはり戻ってしまうが部分の理解とともに、全体として何を主張しているのかという全体像の把握する力が絶対に必要である。

総合政策学部は環境情報学部と出題の形式、内容ともに全く同じであるので、自分が受験する学部にこだわることなしに両方の学部の過去問を解き、超長文に慣れ親しむことが必要である。

### 【I】

予想配点	100/200 点	時間配分の目安	60/120 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 1338 words 『でか単』『完熟』レベル] 『でか単』『完熟』ともに PART3 [長文テーマ] 子育ての心理		
出題形式	適語補充・内容一致(全てマーク)		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す [1] A [2] B [3] A [4] B [5] A [6] A [7] A [8] A [9] C [10] A [11] A [12] A [13] B [14] A [15] C [16] B [17] B [18] A [19] B [20] C [21] B [22] B [23] A [24] B [25] A [26] A [27] B [28] A [29] B [30] B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	高3 秋からの長文マラソンで 2, 3 ページにわたる長文には多く触れる。また、高3 OS 英語の題材は高校生レベル以上の単語を多く含むため、普段から未知の単語の意味類推の訓練を積むことになる。		

#### ●本大問の特徴・概要

例年通りの 3 ページに及ぶ長文の出題。文中の空欄補充（3 択）が 20 問、読解の内容一致問題（4 択）が 10 問である。難易度は例年とほぼ同じであり、今年度の大問 2 と比べるとやや解きやすい問題が多くなっている。特に前半の空欄補充での正答すべき問題（20 問中 11 問）を取りこぼさず取れたかどうかがかぎとなるだろう。

当大問を通して、高い語彙力と忍耐強さが求められる。本文中には、高校生の知識の範囲をはるかに超えた単語が頻出する。しかし設問になっている部分は前後の文脈や周りの大学受験レベルの単語をヒントにすれば正解に辿りつけるものも多い。

#### ●注目すべき小問

- [1] 設問にたどり着くまでの 6 行で目にする超高校生級の単語で、焦ってしまう人も多かったかもしれない。しかし、落ち着いて後の 3 文を読めば確信を持って 1 と答えられる。また、この 3 択の空欄補充には、当設問のように「2 つがマイナス、1 つがプラス（または逆）の意味の語句で、文脈上容易に一つの方に絞ることができる」という問題も少なからず存在する（本問では他に[2][16]がそれにあたる）ので、戦略の一つとして心に留めておきたい。
- [2] 直後だけ読むと、うっかり“マイナス”の選択肢である 2 を選んでしまいがちである。先までよく読めば 3 がふさわしいと正答できる。
- [4] 正解の 2 の単語の意味を知らなくとも、1 が benefit の、3 が succeed の派生語だとわかればそれらを消せる。このように、未知の単語のなかに既知の単語の断片を見つけて意味を類推する訓練は常日頃から積んでおきたい。
- [9] risk taker を、risk を取る（取り除く）人、の意味だと思って 1 だと誤答した人が多かったのではない。しかし、take a risk は「危険を冒す」という意味だったので思い出してほしい。
- [15] 難易度の高い単語であった。imminent「差し迫った」は、death とコロケーションを成す(imminent death 差し迫った死)ので覚えておこう。
- [20] 直後の nominally「名目上は」の意味がわからないと、3 と正答するのは難しかったであろう。
- [21] 空欄補充の[2]で 2 の ignore だと誤答してしまった人は、当設問も連動して 3 と誤答してしまったかもしれない。
- [30] 本文全体の意図がきちんと読み取れているかを問う、文字通り合否を分ける設問である。

## 【Ⅱ】

予想配点	100/200 点	時間配分の目安	60/120 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 1207 words 『でか単』『完熟』レベル] 『でか単』『完熟』ともに PART3 [長文テーマ] 美術館の持つ公共性と商業的側面の関係		
出題形式	適語補充・内容一致 (全てマーク式)		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す [31] A [32] B [33] A [34] B [35] B [36] B [37] B [38] B [39] B [40] B [41] A [42] B [43] C [44] B [45] B [46] A [47] B [48] A [49] B [50] C [51] B [52] B [53] B [54] B [55] A [56] B [57] B [58] A [59] B [60] B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	秋からはじめる長文マラソンにおいて、長文に慣れ親しむことが出来る。 また OS 英語においては、語彙レベルの高い、内容が専門的である文章に触れることができ、そこから全体として何を主張しているのかを把握する力を養成することが出来る。 『でか単』『完熟』ともに PART3 までマスターすることで、空所補充の熟語、単語補充の問題には対応することが十分に出来る。		

### ●本大問の特徴・概要

大問 I 同様に出題形式は全く同じである。

内容の点では大問 I よりはるかに難しいが、設問に対しての対応という面だけを考えれば内容の難しさとは比べて正解しやすかったとは思える。

本大問においても、特に一部分の理解が得られなくも、全体として何を言っているのかを把握する忍耐力が必要とされている。

内容一致は対応する段落の発見がまず第一に出来たかどうかで解答の鍵を握る。

### ●注目すべき小問

- [31] 形容詞が 3 つ選択肢に与えられているが、それぞれの意味は必ずおさえていなくてはいけないものだけである。倒置が発生していて S+V+C の構造が C+V+S となっているが、文法の基礎力が培われていれば迷うことがない問題であろう。この問題は絶対に落とせない問題である。
- [33] 該当する言葉が先行詞となってその背後に **in which they exist** とあるので、自分たちが存在しているものが該当する言葉になるはず。落としたり致命的な問題であろう。
- [36] 与えられた選択肢が全て接続詞として使用することが出来るものである。したがって内容を考慮に入れなくては正解が取れない問題。接続詞の意味、使い方が的確に理解できているかどうかの文法的知識を絡めた問題。
- [38] 形容詞が選択肢に並んでいる。形容詞に関しては少なくとも、マイナス的なイメージで使うものかプラスのイメージで使うものかを、日ごろの学習において意識しておく必要がある。この場合は正解のものだけがマイナスのイメージで使うべきものであることがわかるはずである。
- [39] 文章の構造が見えたかを問われている。Initially と then という対応があり、しかも **then by the press for being less...** とつながる構造がわかれば正解には簡単に辿り着けたと思われる。
- [43] 与えられている単語はそれほど難解ではないが、内容を的確に把握していないと、正解には辿り着けない問題で、難問と思われる。
- [44] 熟語の知識があれば内容を考え正解に導けるはずである。
- [50] 普段何気なく使っている単語 **merit = be worthy of** という意外な意味があることを問われた問題。難題であろう。

単語は意味だけではなく、普段から使い方、類義語に敏感になっていくことが総合政策学部受験には必要なことである。